

## 東京都世田谷区在住雇用労働者夫妻の生活時間—2000年調査から

○粕谷美砂子\* 齊藤ゆか\* 伊藤純\* 天野晴子\*\* 斎藤悦子\*<sup>3</sup> 松葉口玲子\*<sup>4</sup> 水野谷武志\*<sup>5</sup>  
 天野寛子\* 伊藤セツ\* (\*昭和女大 \*\*日本女大 \*<sup>3</sup>岐阜経済大 \*<sup>4</sup>鳴門教育大 \*<sup>5</sup>法政大・院)

目的：1999年、雇用機会均等法の実施と労基法の女子保護規定撤廃が行われた。さらに、規制緩和の進展等による働き方の男女基準の共通化への気運が強まる一方、日本でも家族の多様化が進んでいる。また、20世紀の終り、インターネットの普及は人間の時間環境を大きく変えた。そうした中で我々は、2000年10月、1990年以来5年に一度、3回目の世田谷生活時間調査を行った。調査目的は、21世紀を前にした夫妻の生活時間配分の実態を記録し、夫妻の時間配分における関係の変化をみることである。

方法：調査時期は2000年10月中の平日・休日の各1日である。世田谷区在住の雇用労働者夫妻に公募を行い、調査協力を申し出た人に対してプレコード方式の生活時間票及びアンケート用紙を郵送・回収した。自記・留置方式である。分析は妻の勤務形態別に行った。

結果：調査協力を申し出た夫妻は146組、有効回答数は131組（妻常勤41、妻パート35、妻無職55）計262人であった。平均年齢は夫47.4歳、妻45.6歳。生活時間調査結果の一部を表に示した。妻常勤世帯をみると過去の調査と比較して、1、勤務時間は夫妻とも増加した。2、夫妻の家事労働時間は、平日・休日ともに減少した。3、休日の社会的・文化的な生活時間は増加した。

	妻常勤共働き世帯(時間.分)			
	平日		休日	
生活時間大分類	夫	妻	夫	妻
生理的生活時間	9.16	9.09	12.04	12.00
収入労働時間	11.44	9.36	0.46	0.36
家事的な生活時間	0.41	2.57	2.21	4.53
社会的・文化的な生活時間	2.19	2.18	8.49	6.31
合計	24.00	24.00	24.00	24.00